

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(13) 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本（横浜市鶴見区梶山）

標本番号 KPM-NP 10

標本名 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本

大きさ（分割枚数） 横に分割（3枚）

KPM-NP 10-1: 幅 0.54 m, 高さ 1.62 m

KPM-NP 10-2: 幅 0.5 m, 高さ 2.55 m

KPM-NP 10-3: 幅 0.7 m, 高さ 2.85 m

重量

KPM-NP 10-1: 展示中のため不明

KPM-NP 10-2: 4.8 kg

KPM-NP 10-3: 5.7 kg

形状・展示・収納状況 NP10-1 は、板に固定した状態で常設展示（神奈川展示室）。NP 10-2, 3 は、薄い絨毯状、短辺を軸として巻いて大型移動棚に収蔵

採集地 神奈川県横浜市鶴見区梶山

緯度・経度 N35°31'31", E139°39'38"

標高 30 m ±

露頭の種別と現状 造成地の人工露頭、現存

露頭面の向き、傾斜 N40°E、ほぼ垂直

堆積物の種別 降下テフラ（陸成層）

年代 660 ± 5.5 ka（箱根東京テフラ，青木ほか，2008）

採集作業者 森山哲和（考古造形研究所）

採集立会者 今永 勇

採集日 1992 年

関連文献等 笠間友博・山下浩之（2005）高森丘陵南

西部で出現した特徴的な箱根新期軽石流堆積物 [Hk-T(pfl)] について～高森丘陵と多摩丘陵で発見されたスコリアを含む成層堆積物の共通層序～．神奈川県立博物館研究報告（自然科学）(34): 1-16.

解説 標本は KPM-NP 10-1 ～ 3 に 3 分割され、そのうち KPM-NP 10-1 が生命の星・地球博物館 3F 神奈川展示室で展示されている。同一露頭での剥ぎ取りであるが、著者が立ち会っていないため、これらの左右位置関係は不明である。露頭は下末吉台地の三ッ池公園付近である。火山灰土層に含まれるテフラは下位より箱根三浦テフラ [Hk-MP]（三浦軽石）、箱根東京テフラ [Hk-TP]（東京軽石）および箱根中央火口丘テフラ [Hk-CC：詳細不明] である。箱根三浦テフラは上位に存在する火山砂や火山灰層はなく、下位の軽石層が断続的にみられた。箱根東京テフラは降下ユニットが比較的明瞭に確認でき、スケッチは笠間・山下（2005）に従って区分した。TP6 とした火山場に富む部分は不明瞭、また TP1 の下位に存在する火山灰層も確認できなかった。最上部に軽石流堆積物はなく、侵食され、TP7,8 は部分的に保存されている状態であった。この部分は上下に火山砂層が、中央部に带状に橙色軽石が堆積していた。KPM-NP10-1 では下位の TP1,2 に相当する部分も欠落している。

記録者 笠間友博

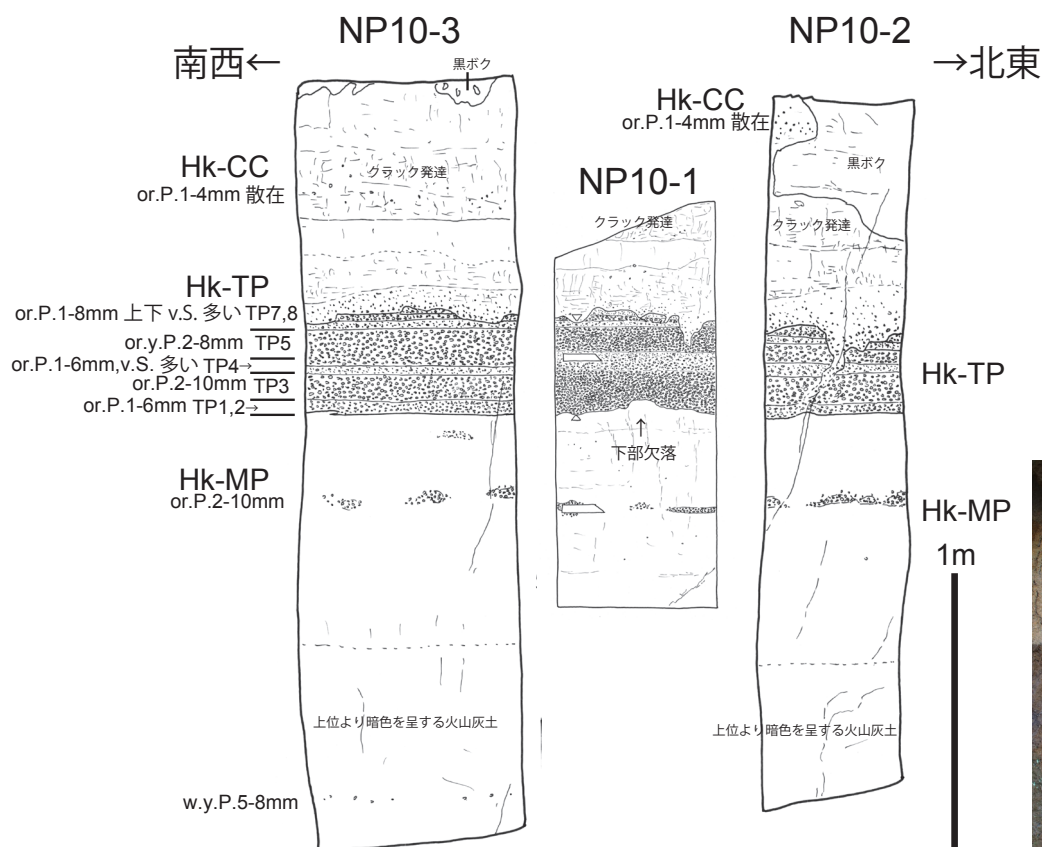


図 1a-13-1. 剥ぎ取り標本のスケッチ（笠間原図）。



図 1a-13-2. 露頭の様子。

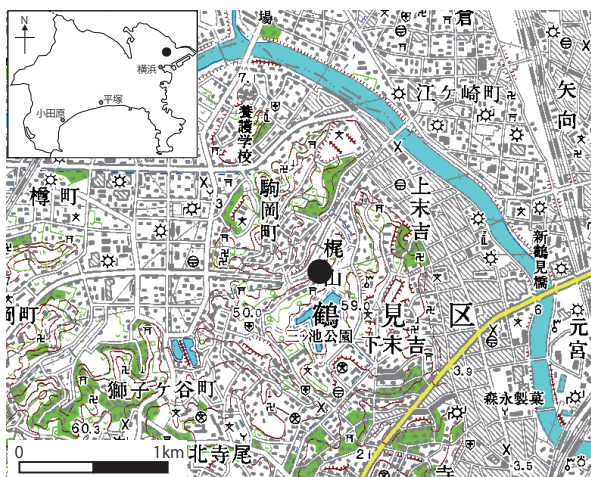


図 Ia-13-3. 採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「埼玉・東京・神奈川」を使用）。



図 Ia-13-4. 分割する前の標本写真。



図 Ia-13-5. 剥ぎ取り標本（KPM-NP 10-1）の写真（神奈川展示室）（中村 淳氏撮影）。



図 Ia-13-6. 剥ぎ取り標本（右：KPM-NP10-2, 左：KPM-NP10-3）の写真。